

# 青色街灯の事例

2005年からの日本国内における青色街灯(青色防犯灯)の流行は、英国・スコットランドのグラスゴー市の事例を紹介するホームページ<sup>26)</sup>とテレビ放映<sup>27)</sup>の情報が発端でした。ここでは、青色灯の5つの設置事例を示します。それぞれ設置に至った経緯が違います。また、ランプの種類(蛍光ランプ系・水銀ランプ系)とW数も違うので、微妙に光色が異なり、照度もかなり違います<sup>28)</sup>。そのため、街並みや人の見え方が違います。



図 26 グラスゴー市 Buchanan 通り

廃坑したかつての炭鉱都市の景観改善を目的として、2000年に橙色(高圧ナトリウムランプ)が青色に替えられました。2005年には、光のフェスティバルが実施され、建物がライトアップされています。青色街灯は、2灯用の高W数のランプに青色カバーを取り付けたもので、明るさは20~200lxあり、非常に明るい通りです。犯罪対策としては、地域内にCCTV(監視カメラ)が設置されています。青色街灯に変更したのは、グラスゴー市のごく一部の通りですが、麻薬常習者が集る橋の下などに青色街灯を設置したところ、青い光の下では、麻薬の静脈注射が困難になったことから、40%程度の常習者の減少がありました<sup>29)</sup>。これを日本国内におけるテレビ放送では、「犯罪全体が減少した」と拡大解釈して報道されました。



← (a) 2005年6月、一部のコンパクト形36W(FPL36EB:840lm)防犯灯のランプが青色ランプに取替えられた。当初5灯、その後12灯になり、明るさは1.5lx程度。当住宅地は、もともと防犯意識が高く、2005年度の警察庁「地域安全安心ステーション」モデル事業実施地区に選定された。それをきっかけに、県警察本部の指導を受けて取り組まれたもの<sup>28)</sup>。



← (b) 2006年6月、地区内の20W防犯灯(502灯)のランプを青色ランプに取替えた。現在は550灯になっている。奈良市秋篠台の住宅地に設置されて防犯効果を挙げているとの情報により設置された。明るさは、防犯灯の設置場所(電柱間隔)により異なるが、0.8~1.3lxである。住民の防犯意識が非常に高まり、活発な防犯活動が行われている<sup>28)</sup>。



← (c) 2008年度国土交通省「地域安全マップを活用した安全・安心まちづくり検討調査」事業に取り組んでいた。その一環として、2009年1月に地域の20W防犯灯の内、12基を青色コンパクト形42W防犯灯に取替えた。電柱に取り付けられているが、間隔は約30mで明るさは2lx程度。青色20W防犯灯に比べて、約2倍の明るさがあり、背景全体も人の見え方も良い。



← (d) JR駅前駐輪場の1階の蛍光ランプ40Wランプ(41基)が青色ランプに取替えられた。2階は従来通りの白色ランプ(30基、他20W防犯灯が14基)である。明るさは、1階が7~14lx、2階が13~26lx。敷地内には、1、2階併せて7台の防犯カメラが設置されており、管理人が常駐している。

3つの住宅地の事例では、それぞれに青色蛍光ランプのW数が異なります。従って、ランプの光量が違い、街路の明るさも違ってきます。国内の事例のほとんどが20Wであり、36、42Wの事例はごくわずかです。ほとんどの現場では、明るさが不足しています。

図 27 国内各地の設置事例

## Q10 青色灯設置地区の住民や、犯罪企図者の意見は？

**A10** 奈良県で実施した意識調査結果を図28に示します。犯罪抑止効果がないとする割合は犯罪企図者の方が、一般市民より高くなっています。一般市民では犯罪抑止効果があるとする人が約46.2~52.8%、犯罪企図者は52.6%、補導少年は34.6%ですが、補導少年の約46.2%は否定しています<sup>9)</sup>。

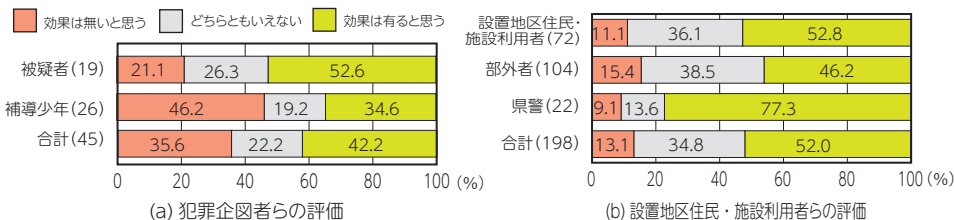


図 28 犯罪企図者および住民の評価<sup>9),13)</sup>

## Q11 防犯カメラの映像は鮮明ですか？色の再現性が悪くはありませんか？

**A11** カメラによって、かなり異なります<sup>9),30),31)</sup>。

映像の鮮明さは、カメラの分光感度次第です。分光感度がヒトの目に近いカメラでは、映像は青っぽく、色の判別も困難です。しかし、汎用タイプのカメラの中には、短波長に感度の高いものがあり、それを用いた場合は、低照度では比較的判別しやすい画像が得られます<sup>30),31)</sup>。